

若い力で盛り上げる西条の「農」

20歳から農業を始め4年。親そして先輩農業者の背中を追いながら、日々試行錯誤を続ける松本佳樹さん。若手農家の思いを聞いてきました。

理想の農家になるために

高校を卒業し、農業大学校で2年間勉強後、農家への道を歩み始めた松本佳樹さん。「うちはひいじいさんから代々続く農家で、中学校の頃には農業をしようと思ってました」。現在は、個人できゅうりとサトイモを栽培しています。「天候などの影響で失敗続きの毎日です。親から機械の使い方を学んだり、先輩から作り方を教わったりして、今はとにかく勉強しています」と苦笑いで話します。

「天気や市場価格などを気にしなければいけない。小まめに畑の様子を見るようにも心掛けていますね」。収穫が売りに上げに直結する仕事だからこそ、常に農作物のことを考えて仕事に取り組んでいます。

「出荷量、そして売り先を増やしていくのが今後の目標。経営がうまくできてないんで、まず軌道に乗れるようがんばりたい。そしたらもっと仕事も楽しくなるのかな」と抱負を教えてくださいました。

悩みや成功を分かち合える仲間

今年度から西条市青年農業者協議会（※）の会長を務める松本さん。毎年10月には神戸小学校の3年

生を対象にサツマイモ掘りのイベントを実施しています。「普段食べているものがどうやってできるかを学ぶことで、農業を身近に感じてほしい。今年も無事開催でき、楽しそうに収穫する姿に、僕たちも力をもらいました」。ほかにも、視察や勉強会を行い、会員それぞれが経営へと生かしています。「作っているもの、経営などみんなスタイルが違います。でも仲間同士で悩みや成功体験を分かち合えて、とてもプラスになっています。会員の一人が今年、岐阜県への視察研修を生かして『いのちの壺』というお米を作りました。そういう新しい挑戦ができるのも青年協ならではの魅力ですね」と仲間のありがたさを語ります。

「農業って高齢化のイメージが強いんですけどね。でも、実は制度や補助金とか『やってみたい』を応援してくれる環境が整っていると思います。どんな若者も入ってきてくれるとうれしいです。農業を始めるには絶対に周りの助けが必要。青年協はそんなときにつなげる場でもあると思います。青年協をきっかけに、もっと若い力で西条の農業を盛り上げたいですね」と意気込みを語ってくれました。

※おおむね40歳までの次世代を担う青年農業者の集まり。現在の会員は35人。略称は「青年協」

若手×農業



西条市青年農業者協議会
会長 松本 佳樹さん（橘地区）



サツマイモ収穫の様子。作業のかたわら子どもへ農業の大切さも伝えます



「農」がつくる幸せ

西条市は、瀬戸内の温暖な気候と豊富な地下水に支えられ、米や野菜、果樹など、農業が盛んな地域。住みやすい田舎と呼ばれるのも、私たちが普段の暮らしで当たり前「地元のもの」を食べられるからではないでしょうか。こうした豊かな食を守ってくれているのは、現場で汗を流す農家さん。私たちの日常の「幸せ」を守る農家さんはどんな思いで農業に取り組んでいるのでしょうか。



①②マルシェ出店の様子。自ら作った旬な食材を笑顔で販売します
③年間約50品目の中からメンバーが考案し、組み合わせた旬菜ボックス【イメージ】

詳細は▼



これらの課題を解決し、豊かな農村環境が持続できるよう、西条市では経営支援や担い手の確保、基盤整備などに取り組んでいます。

西条市ははだか麦や愛宕柿など、多品目の農産物を生産しているほか、採卵鶏や養豚など畜産業も盛んです。農家が経営する経営耕地面積は、4047ヘクタールで、四国第一位。農業産出額や総農家数も県内トップレベルで、豊かな環境に恵まれた農業地帯。しかし豊かである一方、耕作放棄地の増加や農業就業者の減少などの課題も。耕作放棄地とは作付けされていない田畑や果樹園で、条件不利地域を中心に年々増加しています。農業就業者人口も平成12年には、7309人いましたが平成27年には約50%減の、3825人に。また65歳以上の方の割合は69%と増えているため、高齢化による担い手不足が目立ちます。

出典：農林業センサス



西条市の農業の現状と課題

期便のほか、ふるさと納税の返礼品にもなっていて、昨年は370箱出荷。「リピーターも増えて、喜びの声ももらっています。今後は新規注文者を増やしたい」と主に米を栽培する越智祥子さんは意欲を見せます。

女性目線で食べる人を想う

「水が豊かで恵まれた環境の西条では、野菜がおいしい」と話すのはいちごやトマトなどを生産する原田美佐子さん。「直売所などで市外の人から『西条の野菜を食べたい』ってよく言われます。住んでいて当たり前だったけど、やっぱり環境や農作物に恵まれているなって実感しますね。加工品の販売も考えましたが、

まずは原点のものから広めていこうと農作物をメインにしました。地域ならではのおいしい食材を季節ごとにメンバーで話し合い、協力しながら広めています。「チラシにはメンバーの似顔絵イラストを入れたり、直筆のメッセージを入れたりなど、私たち独自の視点も生かしている」と原田さん。藤岡さんも「ほかではやっていないおもしろいことをやっていきたい」と意気込みます。

「たべとうみんの活動を通じて、新しい販路や出会いができた。私のことを知ってくれる人も増えてつながりもたくさんできた。メンバーに出会えたことにすごく感謝してる」と越智さん。農業以外にも子育てや

家族など、お母さん世代ならではの悩みなどをメンバーに相談できるのもメリットの一つ。加藤さんも「今では家族ぐるみで『たべとうみん』。夫同士も仲良くなり、みんなで農業の知識などを共有しています」。

これら、結成から現在までの活動が認められ、愛媛県優良農山漁村生活研究組織知事表彰を受賞。今後の目標は「食べる人・作る人に私たちの顔が見える農作物を作る存在でありたい」と藤岡さん。「農業は楽しくてやりがいのある仕事。活動を通じて、子どもたちや女性にも『すてき』『かっこいい』職業と思ってもらえるようがんばりたい」と加藤さんは力強く話してくれました。

女性×農業



たべとうみん

加藤 千絵さん(禎瑞地区)

藤岡 ゆかりさん(国安地区)

原田 美佐子さん(丹原地区)

越智 祥子さん(神拝地区)

地元の旬を食卓に 農業女子がつながり、広げる「農」

家族とともに農業を営み、自ら育てた農作物を仲間と一緒に販売する女性農業者グループ「たべとうみん」。女性目線を生かし、安全・安心で顔の見える農作物をお届けしています。

異なる場所でも思いを一つに

「たべとうみん」とは、東予の方言で「食べてみてよ」という意味。2015年、四国中央市・西条市の女性たちが結成しました。米やブロッコリーなどを栽培する加藤千絵さんは「夫が農家で、グループができるまでは、農家の嫁として働いていた。周りは農家でいっぱいなのに、女性には全然なくて……」。そんなとき、愛媛県が主催する女性農業者を対象にした「農業経営参画支援講座」に参加。「似たような環境で、同じ悩みを持っている同世代の人がいっぱいいて、びっくりしました。そのときに今のメンバーと出会ったんです」。藤岡ゆかりさんは、グループ設立をきっかけにきゅうりやメロンなどを栽培するように。「もともとのお米農家だったんです。たべとうみんがなかったら野菜は作ってなかったですね」と話します。

現在は西条市4人、四国中央市2人の6人のメンバーで活動中。結成時は持ち寄った農作物をマルシェなどで共同販売していましたが、コロナの影響で出店できなくなりました。そこで始めたのが「旬菜ボックス」。安全・安心で旬な食材を皆さんの手元に届ける通販の取り組みです。定

人と農地をつなぐ 地域のみんなで育てる「農」

皆さん「農業委員会」ってご存じですか。

農業委員会とは、農地利用の最適化を図るために活動する各地区の農家代表の集まりです。委員として約30年間活動する加藤茂さんと、女性委員の真鍋美鈴さんをたずねました。

継承×農業

環境を整え、人を育てる

平成2年に農業委員に就任して、30年以上地域の農業を見守る加藤茂さん。「ばくらは、指導者でもあり、農家さんの相談を聞ける身近な存在です」。魅力ある農業を次世代につなげるために、現在西条市では、54人が委員として活動しています。地域の農家さんから農地のやりとりや、耕作放棄地など農地に関する相談を受け、アドバイスや指導をします。

「最近では山間部だけでなく、平地でも耕作放棄地が目立ってきています。また、加茂川より東部は高齢化や後継者不足が大きな課題。やっぱり整備できていないと就農者も増えんし、次に引き継げん」。まずは地域でほ場整備を進め、農地を守っていくのが大切だと話します。



担当地域の農地を把握しておくことも仕事のひとつ。「地域によって耕作条件も環境も違うので、農家の皆さんもいろんな悩みを抱えていると思う。それにJAの支所統合で農家の窓口がなくなってきた。だからこそ、地域の相談役として、農業委員の役割が重要になってくる」。

「西条は気候にも恵まれ、経営耕地面積も四国では第一位なので手段を変えてでも、収益が上がる農業を目指していきたい」。これからも地域のために、農家の皆さんと一緒に活動していきます。

「農」のある景色をいつまでも

現在、西条市農業委員会には女性委員が2人。その一人は小松地区で米や麦、サトイモなどを栽培する真鍋美鈴さん。



鍋美鈴さん。「就農したころは、女性はお手伝い」やったけど、今ではトラクターに乗るとか一農業者として当たり前。それに消費者目線に立つこともできるので、食味などで栽培する品種を決めます」。加工品を販売できる産直市やみちの駅などが増えたため、農業の6次産業化に伴い女性が農業で活躍できる場が増えてきています。

「このまちが自然豊かとか、住みたい田舎といわれるのも『農』がある景色あつてだと思う」と農業が盛んであることが、美しいまちの景観につながっていると真鍋さん。だからこそ地域全体で「農」を守っていくことが重要だと話します。「農業者って社長であり、研究者であり、プレイヤー。いろんな役割を担っているんで、ときには孤独で辛いときもある。だから農業委員が農家を守り、地域みんなで農業を守っていかないかんよね」。これからも農家同士でサポートし合い、次世代に地域農業を継承していきます。

▼農業委員会に関する問合せ

市庁舎本館3階
農業委員会事務局

TEL 0897-15211262

これからの地域農業を見据え、課題解決へ

ほ場整備（※）事業が進む中、2018年に北条新田地区（多賀校区）の有志5人で設立した農業組合法人ファーム北条。生産性の高い農地を次世代に残すために、活動しています。

※区画整理、用排水路・農道の整備を一体的に行い、生産性の高い農地に作り変える事業

湿田が多い農地の生産性向上と、高齢化で耕作放棄地が増える課題を解決するため、ほ場整備を進めています。

ほ場整備で変わったことは狭い水田が広くなり、農作業の効率も上がったと思います。また、自動給水栓を導入し、水田の給水をスマートフォンで遠隔操作できるようになりました。日々の管理がものすごく楽になり、作業効率は格段に良くなっています。現在ファーム北条では、米や麦、サトイモ、メロンを栽培していますが、生産性の高い農地になると、栽培する品目も増え、収益向上も見込めます。

ほ場整備をしてなかったら、以前の農地の半分が耕作放棄地になっていると思います。整備をしたことで、地域の方からも「良くなった」「作業が楽になり、助かっている」という声も聞いています。整備が完了するまでには時間は掛かりますが、生産しやすい環境づくりをすることで、農業人口を増やし、地域全体で農地を守っていきたいです。



①農業組合法人ファーム北条の皆さん ②整備した自動給水栓。管理も手軽に ③工事中の状況



(株)PENTA FARM
佐伯 祐介さん(田野・中川地区)

少しでも農家さんの力に
「今から約30年前、おやじらの代に観光農園で人集めたらええよねって、できたのが前身のもぎたて倶楽部なんです」。佐伯祐介さんはハツラツと話します。「会社ができる前、果物を使ったシロップでかき氷をイベントで出したら、めっちゃ売れて。ただ農家が売るのはしんどいから会社で売っていいこうって」。果樹農家を中心に10年前に会社を設立しました。

まずはキッチンカーでの販売、その一年後には周ちゃんまるごとカフェをオープン。「農園で作ったものでも、めっちゃええものと思うでないものがある。規格外のものとかを加工品として販売することで少しでも農家さんのプラスになれば」。

ほかにも市内の小中学校や老人ホームの給食の卸なども行っています。「農業の人に関わりながら前進していく会社。地域のためならなんでもやります」と笑顔で話します。

農家・地域とともに成長し 魅力を守り抜く「農」

PENTA FARM
の詳細は▼



キッチンカーやカフェなど、主に加工品で農家の人たちを応援する(株)PENTAFARM。丹原地域を拠点としながら、西条市内の農作物をうまく使って活動しています。



①地元の良さが詰まったバウムクーヘン「PENTA BAUM」。種類はプレーン、イチゴ、レモンのほか季節限定も ②オレンジ色が象徴のキッチンカー「もぎたてキッチン」 ③9月～10月上旬で収穫できる栗。ほかにもさまざまな果物の収穫体験ができます

って。ヤギとかブタとか動物を飼っています。果物を採って終わるだけでなく、その場の環境とかを楽しんでもらって、また来たいと思ってもらいたい」と、訪れた方の記憶に残る農園にしています。

「丹原地域Ⅱ観光農園って言われることも多くなり、活動が少しずつ浸透していると思います。これからも地域の人たちとこの魅力を守っていきたい」と意気込む佐伯さん。

「農業の基本は『もの』を作ること。加工品も『もの』がないとできないですからね。そのためには土地がないといけない」と今後は耕作放棄地の解消にも力を入れる予定です。

今年一ターンのための考案で、新たに始まった挑戦がバウムクーヘン。農園でできた果物などを使い、5月から販売しています。「普通、バウムクーヘンは小麦粉を使うんですけど米粉を使っています。果物もそうですが、西条は米どころなので、農家さんのものが使えるでしょ」。地元のものや、人を大切する会社だからこそ思いが商品に詰まっています。「これからもおいしい・楽しい・おもしろいを提供し続けたいですね」とPENTAFARMはこれからも楽しく前進していきます。



① J A えひめ未来 ときめき水都市 本店 仮店舗 (新田155 フレスポ西条内) TEL0897-53-6790
② いとまちマルシェ (朔日市284-2) TEL0897-66-8630
③ J A 周桑 周ちゃん広場 (丹原町池田290) TEL0898-76-2022
④ J A 東予園芸 おいでんやとうえん (丹原町田野上方462) TEL0898-68-3600
⑤ 道の駅小松オアシス おあしす市場 (小松町新屋敷乙22-29) TEL0898-72-3011
※営業時間など詳しくはホームページなどで確認するか、各店舗へお問い合わせください

西条で農作物を
買おう！



春の七草

愛宕柿

はだか麦

全国トップ
クラスの農作物